

**2022 年度 日系社会次世代育成研修
(高校生・大学生招へいプログラム)
オンライン移住学習**

2022 年 12 月 12 日 (月) ~ 2023 年 1 月 25 日 (水)

2023 年 3 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中南米部
公益社団法人青年海外協力協会



目次

I. 日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）概要	1
II. 研修員（国名・学校名）	3
III. プログラム日程	4
IV. プログラム内容	6
V. 研修員よりひとこと	17
VI. 総評	20
【参考】添付資料（実施要項）	

I. 日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）概要

1. 研修の目的

中南米の日系社会は世代交代が進み、日系2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在とっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する研修を通して、日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できる人物の育成を目的としています。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンライン研修に切り替え実施しました。本研修では、将来の日系社会をリードする発信力のある人材を育成するとともに、日本人の海外移住の歴史に関する学習や日本の高校生および大学生とのオンライン交流を通じて、自らのルーツと日本に対する理解を深め、さらに日系人としてのアイデンティティを強化することを狙いとしています。

2. 研修期間

2022年12月12日（月）～2023年1月25日（水）

3. 研修員内訳

高校生研修員

- (1) 人数：4名（うち、修了証受領者 2名）
- (2) 出身国：メキシコ（1名）、ブラジル（1名）、ボリビア（1名）、パラグアイ（1名）

大学生研修員

- (1) 人数：5名（うち、修了証受領者 5名）
- (2) 出身国：メキシコ（1名）、ブラジル（1名）、ペルー（3名）

4. 研修概要

カテゴリー	目的	プログラム名
移住学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自国および日本の歴史と、自身の家族の移住の歴史を照らし合わせ、家族と自身のルーツを知る ・ 他国を含む他の研修員の家族に関する移住の歴史を学ぶ 	移住年表づくり (高校生招へいプログラムのみ)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人の海外移住の歴史や背景を知り、移住した日本人の社会貢献について学ぶ ・ 日系人のアイデンティティを考察する ・ 自国や地域のニーズを把握し、日系人として日系社会や自国の発展のためにはどのような貢献ができるか考える 	日系人を発見しよう①・②
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日系社会等で活動する上で課題解決策や今後の活動について考える 	日系社会の活動について考えよう①・②
	日本の高校生との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン交流しながら互いの文化や習慣、学校生活について発表し、意見交換する
日本の大学生との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本研修で得た知識を取り入れながら、日系社会等での活動方法についてグループ発表を行う 	日本の大学生との交流
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン上での表現力や発信力を高める ・ パワーポイントを用いた見やすい資料の作成方法を学ぶ 	プレゼンテーション・スキル講座①・②
	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループを取りまとめ、成果を導き出す手法の基礎を身に付ける 	ファシリテーション・スキル講座
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画の作成や、配信する上での知識を得る ・ 日系社会等の行事や日本文化の魅力を発信するため、ソーシャルネットワークの活用方法を学ぶ 	動画作成・スキル講座

Ⅱ. 研修員（国名・学校名）

【高校生】計4名

国名	人数		学校名
メキシコ	1	1	メキシコバレー大学付属高等学校
ブラジル	1	1	レオナルドダヴィンチ校
ポリビア	1	1	カリタス学園高等科
パラグアイ	1	1	バプティスト大学エンカルナシオン校

【大学生】計5名

国名	人数		学校名
メキシコ	1	1	ヌエボレオン自治大学
ブラジル	1	1	ロンドリーナ州立大学
ペルー	3	1	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学
		2	ペルー・カトリカ大学

Ⅲ. プログラム日程

【高校生】全 13 回

No	実施日	時間	講義形式	プログラム名
1	2022 年 12 月 14 日 (水)	午前 8 : 00- 午前 9 : 00	ライブ講義	開講式・オリエンテーション
2	12 月 14 日 (水) ~ 12 月 19 日 (月)	★	録画講義	プレゼンテーション・スキル講座①
3	12 月 14 日 (水) ~ 12 月 19 日 (月)	★	録画講義	ファシリテーション・スキル講座
4	12 月 19 日 (月) ~ 12 月 25 日 (日)	★	録画講義	動画作成・スキル講座
5	12 月 20 日 (火)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	プレゼンテーション・スキル講座②
6	12 月 21 日 (水)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	移住年表づくり
7	12 月 26 日 (月) ~ 2023 年 1 月 3 日 (火)	★	録画講義	日系社会の活動について考えよう①
8	12 月 26 日 (月) ~ 2023 年 1 月 3 日 (火)	★	録画講義	日系人を発見しよう①
9	1 月 10 日 (火)	午前 8 : 00- 午前 9 : 15	ライブ講義	日系人を発見しよう②
10	1 月 11 日 (水)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の高校生との交流① (準備)
11	1 月 18 日 (水)	午前 8 : 45- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の高校生との交流②
12	1 月 21 日 (土)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日系社会の活動について考えよう②
13	1 月 25 日 (水)	午前 8 : 45- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の高校生との交流③

* プログラム実施日時は日本時間で行いました。

* ★は録画講義・配信で行いました。

【大学生】全 12 回

No	実施日	時間	講義形式	プログラム名
1	2022 年 12 月 12 日 (月)	午前 8 : 00- 午前 9 : 00	ライブ講義	開講式・オリエンテーション
2	12 月 14 日 (水) ~ 12 月 19 日 (月)	★	録画講義	プレゼンテーション・スキル講座①
3	12 月 14 日 (水) ~ 12 月 19 日 (月)	★	録画講義	ファシリテーション・スキル講座
4	12 月 19 日 (月) ~ 12 月 25 日 (日)	★	録画講義	動画作成・スキル講座
5	12 月 19 日 (月)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の大学生との交流①
6	12 月 23 日 (金)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	プレゼンテーション・スキル講座②
7	12 月 26 日 (月) ~ 2023 年 1 月 3 日 (火)	★	録画講義	日系社会の活動について考えよう①
8	12 月 26 日 (月) ~ 2023 年 1 月 3 日 (火)	★	録画講義	日系人を発見しよう①
9	1 月 6 日 (金)	午前 8 : 00- 午前 9 : 15	ライブ講義	日系人を発見しよう②
10	1 月 14 日 (土)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日系社会の活動について考えよう②
11	1 月 16 日 (月)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の大学生との交流②
12	1 月 23 日 (月)	午前 8 : 00- 午前 10 : 00	ライブ講義	日本の大学生との交流③

* プログラム実施日時は日本時間で行いました。

* ★は録画講義・配信で行いました。

IV. プログラム内容

2022年12月12日（月） オンライン移住学習開始 JICA 挨拶（大学生）ライブ

JICA 横浜 三田村次長による挨拶がありました。

「今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらみなさんに来日いただくことが叶わなかった。だが、オンライン移住学習への参加を希望され、このような形で開催できたことを大変嬉しく思うと同時に、これから各国の日系社会を担っていくのであろうみなさんの志の高さや日系社会への関心の高さを感じている。様々な国の研修員と協力しながら各講義に参加することで、各国の日系社会について理解を深め、改めて自国の日系社会を見つめなおす機会となることを願っている。」と激励を受けました。

今の気分をじゃんけんで表した自己紹介で研修員は「緊張もするが、とてもワクワクしている！」と話し、これから始まる研修への期待を胸に、意欲的に研修に参加しようとする声が聞かれました。



12月14日（水） オンライン移住学習開始 JICA 挨拶（高校生）ライブ

JICA 横浜 三田村次長による挨拶の後、今の気分をじゃんけんで表しながら自己紹介をしました。日本語を話しながら行った自己紹介では、全員が少し緊張していると話しながらも、「日系社会の歴史や日本文化を学びたい。」「いろんなことに挑戦し、日系社会を活性化させていきたい。」

「日本の高校生とオンライン交流できることを楽しみにしている。」等、今日から始まる研修や中南米諸国から集まった新しい仲間との出会いに期待を寄せていました。



12月14日（水）～12月19日（月） プレゼンテーション・スキル講座①（高校生・大学生）

録画講義

JICA 海外協力隊の隊員としてペルーの日系社会で活動した経験を持ち、帰国後、日系人や JICA 海外協力隊事業に携わる講師を迎え、プレゼンテーション・スキル講座を行いました。

オンライン移住学習はじめ、自国の高校や大学、また日系社会の会議等、様々な場面でオンラインでのプレゼンテーションの機会が増えています。対面のときとは異なり、画面上の相手に向かいどのように相手と信頼関係を築きながら自身の意見や情報を発信していくか、また、画面越しに見やすく、分かりやすい資料作成の方法を学びました。

受講前、研修員は「人前で話すことに自信がない。」「緊張のあまり早口になってしまったことがある。」「準備不足で内容があいまいになってしまった。」等、これまでプレゼンテーションをする上で失敗した経験があると共有していましたが、講義修了後のアンケートでは、高校生研修員より「プレゼンテーションを行う上で大切なことは、いかに聴講者に興味を持ってもらえる工夫が大事だと分かり、取り入れていこうと思う。」、大学生研修員より「受講前までプレゼンテーション・スキルについて聞いたことはあったが、仕事をする上でプレゼンテーション能力を向上させたいと思っていたので非常に参考になった。」と前向きに取り組んでいこうとする意欲が感じられました。

12月14日（水）～12月19日（月） ファシリテーション・スキル講座（高校生・大学生）

録画講義

プレゼンテーション・スキル講座を担当した講師より、ファシリテーション・スキル講座を行いました。

オンライン会議システムを利用した研修や研修員が活動する日系社会のミーティングでは、幅広い年齢層や様々な意見を持つ人たちがいる中、参加者全員の意見を引き出しながら、より良い意思決定を行う必要があります。その際、重要となるファシリテーション手法の4つのポイントを学び、今回のオンライン移住学習や日系社会、学校等で活かせるようにしました。

講義を受け、高校生研修員からは「会議等の場には良いファシリテーターが必要となり、その存在の重要性が分かった。」、大学生研修員からは「もっと早くこの講義に出席していたら、大学のグループワークの失敗も改善できたのではないかと思った。今後に活かしたい。」「ブラインドセルフ（他者は知っているが自分は知らない部分）について、他の参加者からフィードバックを得ることで自身の成長に繋がり、異なる価値観を受け入れることになることに気づいた。」等、今後の参考とし、活用していこうとするコメントが寄せられました。

12月19日（月）～12月25日（日） 動画作成・スキル講座（高校生・大学生）録画講義

これまで本研修に参加した研修員より「日系社会の行事やミーティングの参加者が限られている。」「これまで参加していなかった同世代や地域の人たちにも参加してほしい。」「より多くの人たちに日本文化や習慣を伝えたい。」という声が多数ありました。そこで、コロナ禍で拡大したデジタルツールの活用に着目し、効果的な動画の作成方法や注意点について、NHKの番組制作プロデューサーを務め、現在、フリーランスで映像ディレクターやJICA研修事業の講師として活動されている講師を招き、広報の一つの手段として動画作成・スキル講座を行いました。そして、講義後、日系社会や日本文化をテーマに各自3分～5分の短編動画を試作、共有しました。

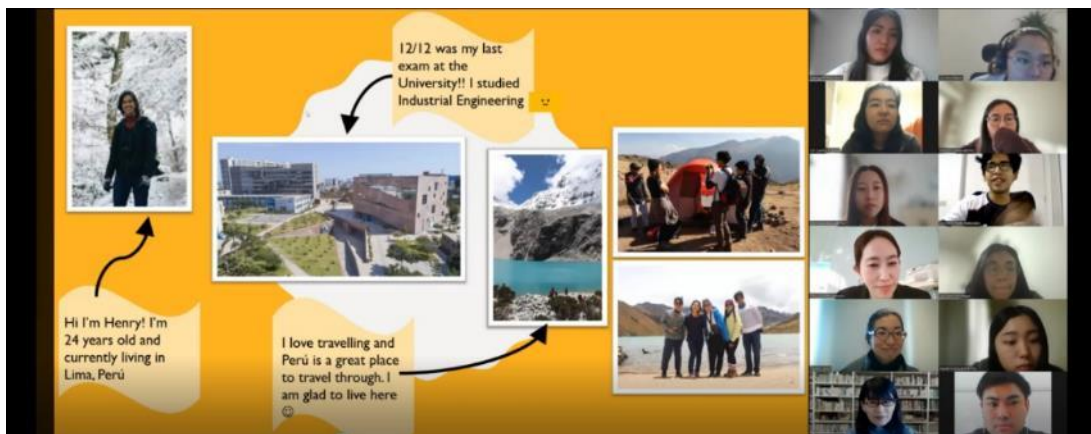
約半数の研修員は、これまで日系社会や学校等で動画作成の経験がないと答えましたが、これまで撮りためた写真や映像、イラストを用いながら自身の経験や独自の視点で情報発信しました。それぞれ個性が輝いており、日系社会や日系人のことを知らない人にも興味を持ってもらえるような、非常にユニークな動画が完成しました。

12月19日（月）日本の大学生との交流①（大学生）ライブ講義

今年度も横浜国立大学の協力を得て、学生や日系人の留学生とオンライン交流を図りながら、オンライン移住学習の最終日に行われるグループ発表の事前準備を行いました。横浜国立大学の学生が所属するゼミでは、今年、パラグアイへのスタディー・ツアーが再開し、中南米や日系社会へより強く関心を寄せています。

互いに自己紹介を行った後、ゲストスピーカーである日系アルゼンチン人の留学生より、自身が所属する日系社会での活動や、日系社会に興味がなかった同世代の友人が、現在では日系社会で活躍するようになった事例等が紹介され、研修員は興味深く話を聴いていました。

その後、各グループに分かれ、グループ発表のテーマや内容について話し合いました。講義を受け、研修員からは「ゲストスピーカーの活動や友人の話と私の周囲の状況が似ており、非常に感銘を受けた。」「日本の学生が日系社会や日系人に興味を持っているので、話していてとても嬉しいし、今後の交流も期待している。」「グループでの話し合いをする中で、それぞれの文化の違いや共通点を見出し、非常に有意義な時間を過ごすことができた。」と話していました。



12月20日（火）プレゼンテーション・スキル講座②（高校生）ライブ講義

「プレゼンテーション・スキル講座①」の講師を迎え、実践編を行いました。マイブームを含めた自己紹介を行った後、講師より「たった2分の間で、各研修員と私の共通点を見つけることができ、もっと話を聴いてみたくなった。」とコメントを受け、短時間であっても発表者と聴講者の間に共通点を見出すことができると、あっという間に心理的な距離が縮まり、互いの信頼感が高まることを実感できた様子が伺えました。

続く「自国と日本の共通点・相違点」をテーマにしたプレゼンテーションでは、研修員の曾祖父や祖母の日本の暮らしと現在の研修員の暮らしや、日本の大学と自国の大学について、自身が聞いたことや調べたことを対比させながら発表を行いました。講師より「みなさん、自分の意見を明確にしなが、時間内に話をまとめ相手に伝えており、大変良かった。」と評価を得ながらオンライン上で発表する際のコツや、相手に分かりやすく伝わるコツを学びました。講義を受け、研修員からは「講師よりプレゼンテーションのフィードバックが得られ、嬉しかった。」「講座①で学んだことを実践する機会があり、説明されていた内容やプレゼンテーションの重要性について理解が深まった。」とあり、講義で得た学びの手ごたえを感じていました。



12月21日（水）移住年表づくり（高校生）ライブ講義

家族の移住の歴史や地域、自国、世界の出来事を調べ、オンライン会議システムのホワイトボード機能を使用しながら移住年表を作成しました。事前課題で調べた家族の移住した年や当時のエピソードをまとめたものを共有しあったところ、研修員より「祖父に船が到着した日のことをインタビューしたら『食べる物がなく非常に困った。皆、お腹を空かせていた』と話していた。」「祖母が『移住した土地は内陸のため、なかなか魚を手に入れることができなかつた。魚を手に入れたときは、日本で暮らしていたときのように、すり身にしてかまぼこをつくって食べた』と懐かしそうに言っていた。」等のコメントがあり、移住地での日本人の暮らしを知ることができました。そして、他国の研修員と共にひとつの画面上に年表をつくることで、中南米へ移住した日本人の移住の歴史等について視覚的にも理解を深める姿が見られました。



12月23日（金）プレゼンテーション・スキル講座②（大学生）ライブ講義

大学生招へいプログラムのプレゼンテーション・スキル講座②では「日系社会や日系人の素晴らしさ・誇りに思うところ」をテーマに、3分間のプレゼンテーションの実践を行いました。研修員は、プレゼンテーションの冒頭で「みなさん、ご存知ですか？」と問いかけをすることで聴講者を惹きつけたり、自分や祖先の経験や生き方を通して感じる日本との繋がりや日系人としての誇りを伝えたりし、各自、工夫を凝らしながら発表を行っていました。研修員は、講師からフィードバックを受けたり互いの発表を聞いたりすることで「日系社会」や「日系人」について新たな視点を見つけ、改めて自身が思う素晴らしさや誇りに思うところを考察する様子が伺えました。

講義を受け、研修員からは「講師が中南米の日系社会や日系人に関わっていたので、私たちのプレゼンテーションの内容を理解した上でフィードバックしてくれたのが嬉しかった。」「同じテーマなのに各研修員の話す内容が異なっていて、非常に興味深かった。」「オンライン上でのプレゼンテーションのフィードバックは役立った。今後も維持していかなければと思う。」とコメントが寄せられました。



12月26日（月）～2023年1月3日（火） 日系社会の活動について考えよう

（高校生・大学生）録画講義

東北地域にて地域おこし協力隊として活動し、現在、国際NGOに勤務されながら地域での活動を続けている講師を迎え、日系社会で活動する上での課題解決策や今後の活動について考察しました。研修員と年齢が近い講師より、故郷を遠く離れ、家族も友人もいない土地でどのように地域を活性化させていったか事例をあげながら、広報活動や信頼関係の築き方等、地域コミュニティでの活動におけるポイントを学びました。

講義を受け、高校生研修員からは「どのように地域社会に関わっていくのか、地域の人々や文化を知ることがコミュニケーションの秘訣となるのが分かった。」「日系社会でも同じことがいえると思うが、何事も新しいことを始めるときは、相手に自分のことを知ってもらうこと、そのためには挨拶からでもいいので積極的に話をし、自ら率先して交流を深めていく努力をすることが大事だと気づいた。」、大学生研修員からは「目標達成するためのステップが分かりやすかった。日系社会で活動する上でもそのような工夫が必要なので取り入れていきたい。」「『ミルクデー』や『菊手水』等、地域にとって『良い変化』をもたらすアイデアや企画力は非常に重要だと分かった。」等、講義を受けることで新たな視点で角度を変えながら考察を深めようとする様子が伺えました。

12月26日（月）～2023年1月3日（火） 日系人を発見しよう①（高校生・大学生）録画講義

JICA 日系社会研修や関東・中部エリアの大学で法律や語学の講師、NHK の放送通訳を務め、中南米をはじめ日系社会に精通している日系人の講師を迎え、日本人の海外移住の歴史や背景を知り、移住した日本人の社会貢献について、また日系人が持つもテンシャルについて学びました。

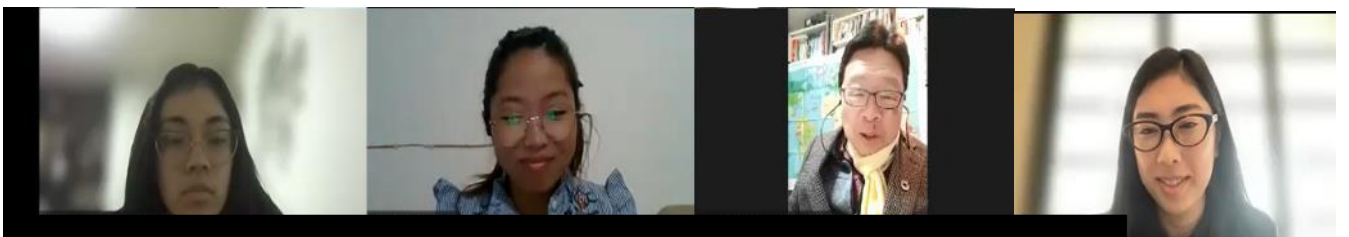
講義を受け、高校生研修員からは「日本人は自国をはじめとする中南米だけではなく、最も古い歴史では150年前にハワイにも移住し、各国の移住地で日本文化や習慣、日本語を守っていることが分かった。」「SDGs の目標達成に向け、自分たちは何ができるのか考えさせられた。」、大学生研修員からは「講義の中で SDGs について触れられていたが、自国の大学や生活の中で耳にすることがなかったため、非常に興味深かった。次世代をリードしていく私たちは、世界の課題を知り、その解決策を模索しながら行動すべきだと思った。」「受講後、日系人とは何か、また世界各国に存在する日系人の共通の特徴はあるのか気になった。」等、驚きや気づきのコメントが寄せられました。

2023年1月6日（金） 日系人を発見しよう②（大学生）ライブ講義

「日系人を発見しよう①」の講師と、2018年度大学生招へいプログラムに参加し、現在、日本の大学院へ留学している留学生を迎え、講師や他の研修員等と意見交換を積み重ねながら、日系人が持つ可能性やSDGsを用いた社会貢献のあり方について考察しました。

現在、日系社会の広報のひとつとしてソーシャルメディアの利用が広まりつつありますが、講師より「一般的にソーシャルメディアは情報発信や遠く離れた家族・友人と会話ができる等のメリットがある一方、フェイクニュースに惑わされ、不安が広がる恐れもある。インターネットで目にするものすべてが真実とは限らない。」とあり、日系社会の情報を発信する際は、自身も誤解を与えるような発信をしないよう、細心の注意を払う必要があると意識する姿が見られました。

講義を受け、研修員からは「講師や他国の研修員や留学生といった、出身国や年齢、職業等、異なる背景を持つ人たちと意見交換をする中で、日系人の重要性に気づくことができた。今後、日系社会で活動する上での励みとなった。」「国によってソーシャルメディアの使い方が異なることに気がつき、大変興味深いものだった。情報を発信する際は慎重に行いたい。」等、日系人の特性を生かし、自国や日系社会での取り組みについて再考していました。

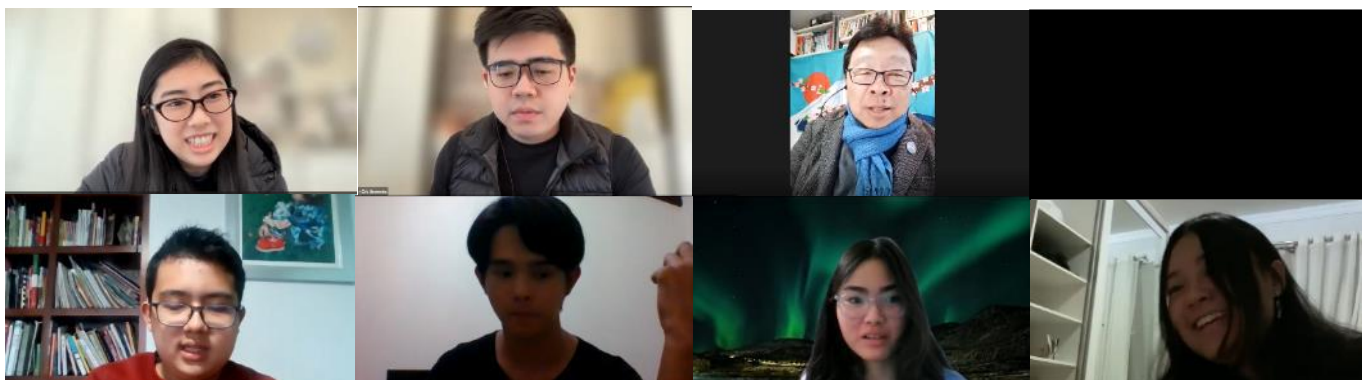


1月10日（火） 日系人を発見しよう②（高校生）ライブ講義

「日系人を発見しよう①」の講師と、2018年度大学生招へいプログラムに参加し、現在、日本の大学院へ留学している留学生を迎え、講師や他の研修員等と意見交換を積み重ねながら、日系人が持つ可能性やアイデンティティ等について考察しました。高校生研修員の中には具体的に日本への留学準備を進めている人もおり、現在、留学中の先輩から様々な情報を得ながら、楽しみながら受講する姿が見られました。

講師や留学生より日本人の移住の歴史やアイデンティティ等について話を聞き、研修員は「祖先や地域の人たちが守り続けて来た日系社会を存続させていく必要があると感じるし、次の世代もそのように感じられるような社会を作り、バトンを渡していきたい。」とコメントしました。また講師と留学生より「複数の文化を持ち合わせる日系人の良さの一つとして、日本の安全性や衛生管理、自国の社会進出や行動力等といった『双方の価値』に気づくことで社会問題の解決に貢献できる。」と話があり、日系人が持つ可能性の広がりを感じていました。

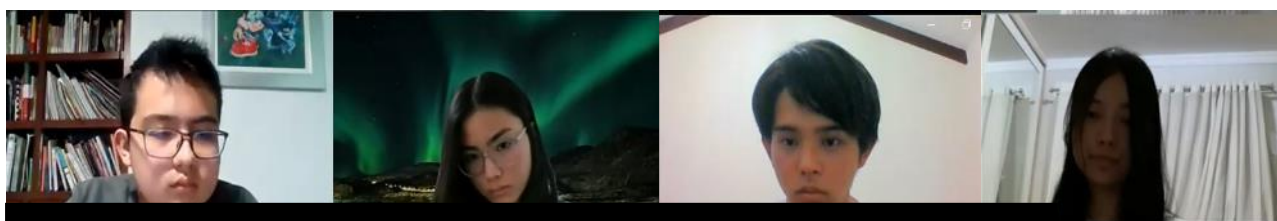
講義を受け、研修員からは「講師や留学生、他の研修員と意見交換できたのは、とても有意義な時間だった。」「自国以外の中南米の日系社会の状況がよく分かり、非常に興味深く、一度、訪れたいと思った。」等、様々な人と話をすることで良い刺激を受けたとコメントしていました。



1月11日（水） 日本の高校生との交流①（高校生）ライブ講義

翌週より始まる広島県立加計高等学校とのオンライン交流に向けて、発表の準備を行いました。研修員たちは加計高等学校や生徒のみなさんとのオンライン交流に期待を寄せながら、どんなことを日本の高校生に知って欲しいか、意見を出し合いました。その際、「今の時代、インターネットで検索すると様々な国の情報にアクセスできるので、できるだけインターネットでは見つけられない、自分たちが撮った写真やイラストを使おう！」と話しました。

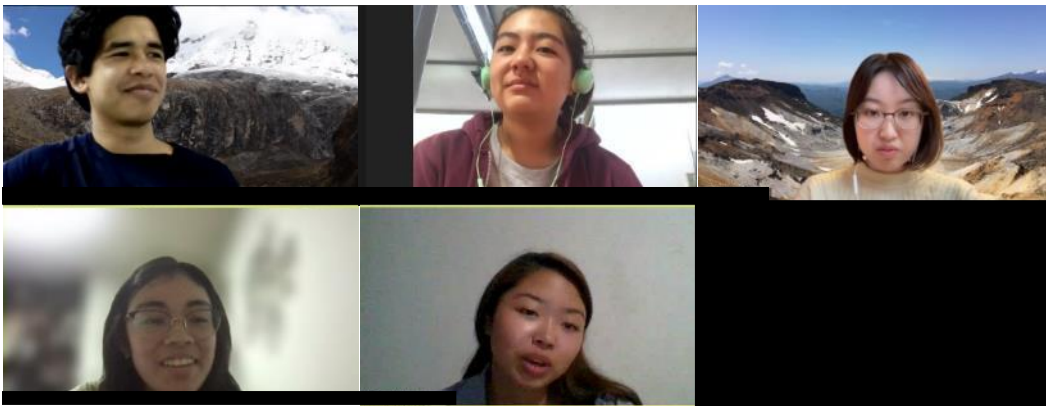
その結果、テーマを「自国の文化と観光地」「自国の伝統的な行事と食べ物（レシピつき）」「所属先の日系社会と日本語学校」と決め、講義修了後も発表資料作り等、各自、準備を進めました。



1月14日（土） 日系社会の活動について考えよう②（大学生）ライブ講義

「日系社会の活動について考えよう①」の講師を迎え、グループディスカッションを行いました。研修員より挙げられた共通の課題点のひとつに「所属する日系社会で新しい行事を企画すると、これまで運営を行ってきた目上の会員の方より、自分たちの若さやアイデアを理由に却下されることが多く、モチベーションが下がってしまう。」とありました。これに対し、講師より「これまで日系社会を支え、運営されてきた方への敬意を払った上で、相手の話に耳を傾けコツコツと信頼を積み重ねていくことが大事。その中で、提案した企画が、既に行ったことのある行事であったり、自分たちのポリシーにあわなかったり、会員の方が反対する理由が次第に分かってくる。相手の話を聴き、自分たちも企画を修正しながら提案することで、少しずつ企画・運営を任せてもらえるのではないか。」と自身の経験を踏まえながらアドバイスがあり、共感する姿が見られました。

講義を受け、研修員からは「講師の体験談から、相手の意見を聴き、信頼関係を築いていくことの重要性を学んだ。この講義は非常に参考になった。」「講師のアドバイスのおかげで、効果的な広報の仕方が分かった。活動をする上で新たな可能性を感じている。」とコメントし、自身の活動と関連づけ、解決策を再考する様子が伺えました。



1月16日（月） 日本の大学生との交流②（大学生）ライブ講義

クリスマス休暇と年末年始を挟んだ2回目の交流では、ウォーミングアップとして参加者全員と親睦を深めるため、グループを入れ替えてフリートークを行い、各グループ休暇中の過ごし方や各国の行事、大学卒業後のライフステージについて話し合いました。

その後、休暇中に各グループで話し合われた発表のトピックスや概要、役割分担を全体共有し、翌週行われるグループ発表に向けて準備およびリハーサルを行いました。研修員は「他の研修員や日本の学生、留学生と意見交換する中で、互いに良い刺激を受け、どんどん面白いアイデアが思い浮かんできた！」と嬉しそうに話し合っていました。講義修了後も、各グループでミーティングを続け、最終調整を行いました。



1月18日（水） 日本の高校生との交流②（高校生）ライブ講義

広島県立加計高等学校（以下、加計高校）の生徒のみなさんと研修員がオンラインで交流をしました。オンライン交流開催にあたり、加計高校の工藤校長先生より「ここ安芸太田町では多くの方がブラジル等中南米へ移住されていて、学校の傍らには移住された方々の氏名が刻まれた記念碑があり、日系の方々との縁を感じています。」とあり、研修員たちはより一層、加計高校や高校の所在地である安芸太田町に興味を示していました。

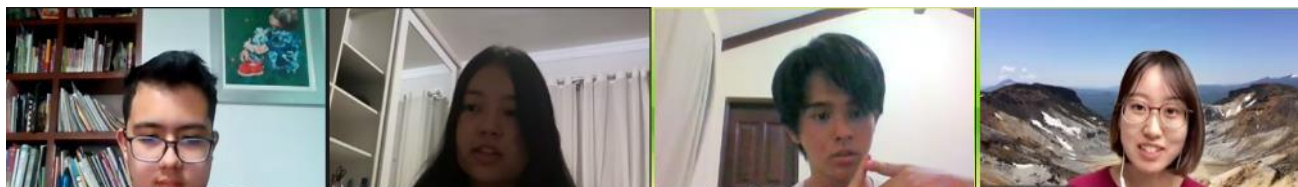
その後、今の気分をじゃんけんで表す「気分じゃんけん」を用いながら自己紹介を行い、互いの国や地域について発表をしました。加計高校の生徒による安芸太田町についての発表を聞き、研修員は「父が日本へ行ったときに温泉のにおいが独特だったと言っていたが、においはしますか？」と質問していました。また、ブラジルの研修員の自国紹介の発表で「ブラジル人で『サッカーをしたことがない』と言う人に会ったことがない。」と話す中、加計高校の生徒より「自分のクラスメートの中で、サッカーを習っている人はどれくらいいますか？」と質問があり、「12名クラスのうち半数はサッカーを習っていて、うち1名はプロチームでサッカーをしている。」と答えると、地球の反対側の同世代の活躍に驚きの声が上がりました。



1月21日（土） 日系社会の活動について考えよう②（高校生）ライブ講義

「日系社会の活動について考えよう①」の講師を迎え、グループディスカッションを行いました。グループで話し合われた活動の課題について「これまで日系社会に参加していない人たちのターゲットにした行事の開催」「新しいことに挑戦するときの仲間の増やし方」が挙げられ、講師が研修員ひとりひとりに日系社会の現状や行事について話を聞きながら、研修員と共に課題解決の糸口を探していきました。講師は研修員との意見交換する中で「まずは仲の良い友人5～6人くらいを集め、自分が面白いと思う日本語や日本文化をテーマとした小さなワークショップを行ってみる。そうすると、他の人が気になって『楽しそう！ 何をしているの?』と寄ってくる。そこから少しずつ仲間を増やしていくと良い。」とスモールステップを踏むことで全体的な課題解決に繋がり、自信に繋がると提言しました。

講義を受け、研修員からは「今の自分には、異なる意見を受け入れる力が必要だと感じた。その上で良好な人間関係を構築できることが分かった。」「相手から興味を持ってもらえる自然な形で人を巻き込み、新しい取り組みを行うことができる可能性が広がることが分かった。」「講師のアイデアはとてもクリエイティブで素敵だと思った。」とコメントが寄せられ、これまでになかった視点で活動する上でのアイデアを考察しようとする様子が見られました。



1月23日（月） 日本の大学生との交流③（大学生）ライブ講義

12月より準備してきたグループワークの成果を、横浜国立大学の学生および留学生のみなさんと2つのグループに分かれ、グループ1より「日系社会における日本文化の普及」、グループ2より「各国の日系社会のイベントの運営、プロモーション方法」をテーマとした発表を行いました。各グループ、本研修の中で習得したプレゼンテーションの手法や動画スキルを活用する等の工夫が見られ、発表に映し出された動画は「広告のように短い時間の中でもメッセージが伝わるようにしよう」と話し合わせ、グループで協力しながら作成していました。

意見交換の場では、研修員や本邦研修に参加した経験のある留学生より「発表で触れたように、ときに日本語の難しさは日本文化を受け継ぐ際、大きな壁となることもあるが、家族と日本について話したり、日系社会で活動したりするうちに少しずつ日本文化の魅力や日系人としてのアイデンティティに気づき『もう一度、日本文化を見直してみよう。』という気持ちが芽生えていった。」

「日系人であるかどうかは関係なく、様々な人たちと意見交換することが大切だと気付いた。」等コメントが寄せられ、日系人としての誇りや日本文化を大切に思う場面が見られました。

講師より「日本で暮らす外国人にはマルチアイデンティティの方が多いが、そこに悩む人たちがおり、サポートを必要としている。今回、自国と日本の繋がりを持つ日系人の研修員のみなさんと意見交換できたのは、互いに勉強となり、今後のサポートに役立つと思う。」とコメントをいただきました。年末年始もミーティングを重ね、グループで討議してきたプロジェクトは、双方にとって非常に有意義な時間となりました。



1月25日（水） 日本の高校生との交流③（高校生）ライブ講義

先週に引き続き、広島県にある加計高校とオンライン交流をしました。前日からの大雪の影響で公共交通手段がなくなり学校へ通えなくなった生徒も多くいた中、寮から学校へ駆けつけたり、自宅からオンラインを繋いだりし、参加してくださいました。研修員より自国紹介や日系社会で伝わる日本文化や行事、日本語学校について発表を行ったところ、発表を聞いた加計高校の生徒より「こんなにも日本の文化が世界の国で伝わっていることにとても驚いた。」「盆踊りのときに浴衣を着ている写真があったが、自国でも浴衣が有名なのか？」「今、参加している研修員のような『日系人』と呼ばれる人が大勢暮らしているのか？」等、次々と質問や感想を寄せられました。

2回のオンライン交流を終えて、研修員からは「少し緊張したが、オンライン上で日本の高校生と出会い、互いの学校生活や文化を紹介しあえたこと、私たちの発表に関心を持ち、質問してくれて嬉しかった。」「自国で日本文化を継承していることに対し、日本の高校生がとても驚いてくれたことに、こちらも驚くと同時に嬉しかった。こんなに喜ばれるのであれば、これからも自国で日本文化を大切にし、継承していくには十分な理由だと感じた。」と日本や日本文化へ関心を強め、日系人としての誇りを感じる姿が見受けられました。



V. 研修員よりひとこと

- ① オンライン移住学習を受講後、どのように自国や地域、日系社会で活用していきたいですか？
- ② オンライン移住学習で一番有益だったことは何ですか？

【高校生】

メキシコ / メキシコ国立自治大学附属高等学校

- ① 周りに日本文化に興味を持っている人が多いので、研修で得た知識を共有し、学生生活でも活かしていきたいと思っています。
- ② 日本の高校生とのオンライン交流で、日本の学校生活について知ることができたこと、他の研修員が住む中南米の日系社会について知ることができたことです。

ブラジル / レオナルドダヴィンチ高等学校

- ① このオンライン移住学習で学んだことを心に留め、今後、地域で活かせるように頑張ろうと思います。
- ② 一番楽しかったのは、日本の高校生とオンライン交流できたことでした。また、プレゼンテーション・スキル講座で学んだ資料の作り方は、様々な発表の場面で役立つと思うので、活用します。

ボリビア / カリタス学園高等科

- ① 特にプレゼンテーション・スキル講座と動画作成・スキル講座はためになりましたので、活用していきたいです。また、友人や周囲にも日本文化を大切にしてもらいたいですし、強要するつもりはありませんが、将来、結婚し、子どもが生まれたら家庭でも日本文化を伝えたいです。
- ② 日本の高校生との交流が有益だったと思います。

パラグアイ / バプティスト大学附属エンカルナシオン校

- ① オンライン移住学習で得た知識を日系社会に関わる人々へ共有し、夏祭りや運動会等、日系社会で行われている様々な行事の運営のサポートができるようになりたいです。また、今ではオンラインで世界中の人たちと繋がるのが可能になったので、世界各国にいる日系人とオンラインミーティングや授業をしてみたいです。
- ② 全ての講義が有益でした。特に印象的だったのは、英語と日本語を使って受講し、日本人や自身の祖先の移住の歴史について知ることができたことです。

【大学生】

★ メキシコ / ヌエボレオン自治大学

- ① 地域の絆を深め、より多くの若い世代の日系人が日本文化や自身のルーツ、日本人の移住の歴史に興味を持ってもらえるような変化をもたらすために活用していきたいです。
- ② 映像作成のための手法やプレゼンテーション・スキルについて学ぶことができたこと、そして何より、今回のオンライン移住学習で出会った人々と絆を深めながら経験を共有することで、さらに日系社会への関心が増したことです。

★ ブラジル / ロンドリーナ州立大学

- ① 今回学んだ全ての知識をフル活用して、自国で日本文化を広めていきたいと思います。自国では「和食」が高評価を得ていますが、そのほかの日本文化も素晴らしいものです。今後、日系社会で積極的に参加し、日系人とは何か、日本文化が自国にとっていかに重要であるかを広めていくイベントをしていき、日系社会に貢献できるようがんばります。
- ② 他国の研修員と情報交換や論議ができたことです。国は違っても、同じく日本文化や習慣を受け継いでいる人たちとの出会いは、非常に嬉しく、貴重な機会でした。他の研修員と日本で再会したいです。

★ ペルー / サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学

- ① 「動画作成・スキル講座」や「日系社会の活動を考えよう①・②」は、これまで学んだことのない分野だったので、非常に興味深かったです。今後の活動で学んだことを取り入れながら、日系社会で活動していきます。
- ② 曾祖父や日本人の移住の歴史や経験を学ぶことができ、非常に感謝しています。近い将来、来日し、日本や出身県の歴史について詳しく調べたいと思います。また、研修員や日本の学生と出会い、絆を深めることができたのは非常に良い経験となりました。

★ ペルー / ペルー・カトリカ大学

- ① 自身が所属する県人会でのイベント企画に苦戦しているので、学んだことを取り入れながら新しいイベントを普及させていきたいです。若い日系人に日系社会へ参加してもらえるよう、ぜひ呼びかけていきたいです。
- ② 日本のルーツを持つ人たちが集まり、日系社会や日系人について話し合う機会は貴重な時間でした。中南米に住む同世代の日系人と知り合い、様々な講義を受けることができたのはとてもいい経験になりました。今回の新しい出会いは、素晴らしかったです。

★ ペルー / ペルー・カトリカ大学

- ① 特に「日本の大学生との交流①・②・③」や「日系社会の活動を考えよう①・②」の講義後、所属する日系団体でどのように活用できるか、今後、日系社会の活動で何をしたいかを考えるようになりました。ゆくゆくは日系社会でプロジェクトの立ち上げもしてみたいです。
- ② 他の研修員や講師等の様々な視点や経験の話を聴くことで、自国をはじめ他の中南米諸国の日系社会がどのように機能しているかを知ることができ、自身の視野が広がりました。研修を通じて日系社会や自国に良い変化をもたらす方法を見つけ、貢献したいと思うようになりました。

VI. 総評

1908年、「笠戸丸」と呼ばれる船でブラジルへ渡った後、ブラジルやボリビア、パラグアイ等、中南米各国への移住が広まり、その歴史は100年以上にもなります。移住した日本人は各国や各地域で「日系社会」と呼ばれる日本人のコミュニティを形成し、日本文化の継承と普及を行ってきましたが、現在、中南米の日系社会では世代交代が進み、若い世代が今後の日系社会を担う存在として期待されています。本研修では、次世代の日系社会をリードしていく若い世代の日系人に対し、日本人の海外移住の歴史に関する学習、その他各種研修を通じて自分たちのルーツ、日本の文化、習慣等を学び、日本に対する理解を深めることで、自らの日系人としてのアイデンティティを強化すること、研修の中で自らの考えを発信する機会を持ち、日本で得た知識や研修の成果を基に、日系社会をリードする発信力のある人材を育成することを目的とし、研修を行っています。

例年通りであれば、中南米諸国に住む日本の高校生および大学生に相当する研修員が来日し本邦研修を行います。新型コロナウイルス感染拡大の影響により来日が叶わず、2020年以降、オンライン会議システムを利用した研修に切り替えて実施しました。

プレゼンテーション・スキル講座およびファシリテーション・スキル講座では、聴講力や発信力の基礎を学びました。それらを向上させることで、日系社会等で活動を行う際、様々なバックグラウンドを持つ人たちと円滑なコミュニケーションを図れるよう本研修を通して実践し、研修修了後も日系社会や学校生活で活かせるようにしました。

移住学習では、日本人の移住の歴史や移住国で農業や医療、そして経済活動に大きく貢献してきたことを学ぶことで祖先への感謝の気持ちが芽生え、日系人であることへの誇りを持つと同時に、自国や日系社会、そして日本へどのような貢献ができるのか、研修員一人一人が真剣に考えるきっかけとなりました。

日系社会等で活動する上での課題や今後の活動について考察する講義では、講師のフィードバックや他の研修員との意見交換の中から、目の前にいる相手の文化的・歴史的背景や価値観を理解し尊重することの重要性や、様々な考えを持つ人たちと連携を図り、互いの強みを活かすことで、より良い日系社会の活動ができるとの気づきを得、今後の取り組みに活かそうと再考する様子が伺えました。

そして、日本の高校生との交流プログラムでは、広島県立加計高等学校の生徒と互いの国や学校生活についての発表の場を設けました。研修員の発表を聴いた日本の高校生より「遠く離れた中南米で日本文化が継承されていることに驚いた。」という声と数々の質問を受け、研修員たちはこれまで各家庭や日系社会で日本文化を大切に継承し、育んできたことへの意義を再認識することに繋がりました。

また、日本の大学生との交流プログラムでは、横浜国立大学の協力を得て日本人の学生および留学生とグループプロジェクトを行い「日系社会」をテーマにグループ発表を行いました。研修員はグループメンバーや大学教員とディスカッションを繰り返す中で多様な考えに触れ、新たな視点を持ち、角度を変えて深化させることができました。高校生・大学生招へいプログラムいずれのオンライン交流も、中南米諸国と日本をオンライン上で結び、これまで本研修で得た知識や技術、各自

の経験を共有しながら行った発表は、双方にとって非常に有意義な時間となりました。

中南米からオンライン上で集まった高校生と大学生の研修員は、本研修を受けることにより、自国以外の中南米諸国にも同様の日系社会があること、日本文化を受け継いでいる仲間がいることを認識でき、そのことは非常に心の支えとなりました。約1カ月間、この研修で出会った仲間と共に、日本との繋がりや日系社会で活動を続ける上で自身の役割や貢献について多くの知識を得、考えを深めてきました。今後、出会った仲間との絆を大切に、ここで得た縁を活かしながら、各国、各地域の日系社会等で周囲との協力、連携を図りながら活躍していくことを期待します。



ねん ど につけい しゃ かい じ せ だい いく せい けんしゅう

2022年度JICA日系社会次世代育成研修

こう こう せい だいがく せいしゅう

(高校生・大学生招へいプログラム)

い じゅう がく しゅう

オンライン移住学習

ちゅうなんべい く につけいじん こうこうせい だいがくせい む けんしゅう かいさい

中南米で暮らす日系人の高校生と大学生に向けてオンライン研修を開催します。

こうぎ かつどう とお えんかつ はか ほうほう み つ
講義やグループ活動を通して円滑にコミュニケーションを図る方法を身に付けます。

につけいじん かのうせい につけいしゃかい かつどう うえ

また、日系人のアイデンティティや可能性、日系社会で活動する上でのアイデアや

かいけつほうほう けんしゅう さんか なかま いっしょ まな

つまづいたときの解決方法について、研修に参加する仲間と一緒に学びます。

こうこうせいしゅう にほん こうこうせい はっぴょう だいがくせいしゅう

高校生招へいプログラムでは日本の高校生とのグループ発表を、大学生招へい

にほん だいがくせい こうりゅう さくせい はっぴょう

プログラムでは日本の大学生とオンライン交流しながらプロジェクト作成と発表を

おこな よてい

行う予定です。

なつ あたら なかま であ につけいしゃかい いっしょ かんが

この夏、新しい仲間と出逢い、これからの日系社会について一緒に考えませんか？

ねん

2022年

がつ

にち

げつ

ねん

2023年

がつ

にち

すい

けん しゅう き かん
研修期間

12月12日 (月) ▶ 1月25日 (水)

こうこうせいしょう
【高校生招へいプログラム】スケジュール

No.	にほん ひづけ じかん 日本の日付と時間	こうぎけいしき 講義形式	プログラム名
1	ねん 2022年 がつ にち すい 12月14日 (水)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前9:00	ライブ講義 かいこうしき 開講式・オリエンテーション
2	がつじゅうよっか すい 12月14日 (水)～ がつ にち げつ まで 12月19日 (月) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 ファシリテーション・スキル講座
3	がつじゅうよっか すい 12月14日 (水)～ がつ にち げつ まで 12月19日 (月) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 プレゼンテーション・スキル講座① (基礎編)
4	がつ にち げつ まで 12月19日 (月)～ がつ にち にち まで 12月25日 (日) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 どうがさくせい 動画作成・スキル講座
5	がつはつ か 12月20日 (火)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	ライブ講義 プレゼンテーション・スキル講座② (グループワーク)
6	がつ にち すい 12月21日 (水)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	ライブ講義 ワークショップ いじゅうねんびょう 移住年表づくり
7	がつ にち げつ まで 12月26日 (月)～ ねん 2023年 がつ みつ か まで 1月 3日 (火) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 につけいしゃかい かつどう かんが 日系社会の活動について考えよう① (基礎編)

No.	にほん ひつげ じかん 日本の日付と時間	こうぎけいしき 講義形式	めい プログラム名
8	12月26日(月)～ 2023年 1月3日(火)迄	★ ろくがこうぎ 録画講義	につけいじん はっけん 日系人を発見しよう① (基礎編)
9	1月10日(火)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前9:15	につけいじん はっけん 日系人を発見しよう② (グループワーク)
10	1月11日(水)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	にほん こうこうせい こうりゅう 日本の高校生との交流① (グループ発表準備)
11	1月18日(水)	ごぜん 午前8:45～ ごぜん 午前10:00	にほん こうこうせい こうりゅう 日本の高校生との交流② (交流およびグループ発表)
12	1月21日(土)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	につけいしやかい かつどう かんが 日系社会の活動について考えよう② (グループワーク)
13	1月25日(水)	ごぜん 午前8:45～ ごぜん 午前10:00	にほん こうこうせい こうりゅう 日本の高校生との交流③ (交流およびグループ発表)

だいがくせいしょう
【大学生招へいプログラム】スケジュール

No.	にほん ひつげ じかん 日本の日付と時間	こうぎけいしき 講義形式	めい プログラム名
1	ねん 2022年 がつ にち げつ 12月12日 (月)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前9:00	ライブ講義 かいこうしき 開講式・オリエンテーション
2	がつじゅうよっか 12月14日 (水)～ がつ にち げつ まで 12月19日 (月) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 ファシリテーション・スキル講座
3	がつじゅうよっか 12月14日 (水)～ がつ にち げつ まで 12月19日 (月) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 プレゼンテーション・スキル講座① (基礎編)
4	がつ にち げつ 12月19日 (月)～ がつ にち にち まで 12月25日 (日) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 動画作成・スキル講座
5	がつ にち げつ 12月19日 (月)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	ライブ講義 にほん だいがくせい こうりゅう 日本の大学生との交流① (グループワーク)
6	がつ にち きん 12月23日 (金)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	ライブ講義 プレゼンテーション・スキル講座② (グループワーク)
7	がつ にち げつ 12月26日 (月)～ ねん 2023年 がつ みつ か か まで 1月 3日 (火) 迄	★	ろくがこうぎ 録画講義 につけいしゃかい かつどう かんが 日系社会の活動について考えよう① (基礎編)

No.	にほん ひつげ じかん 日本の日付と時間	こうぎけいしき 講義形式	プログラム名
8	12月26日(月)～ 2023年 1月3日(火)迄	★	にっけいじん ほっけん 日系人を発見しよう① (きそへん 基礎編)
9	1月6日(金)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前9:15	にっけいじん ほっけん 日系人を発見しよう② (グループワーク)
10	1月14日(土)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	にっけいしゃかい かつどう かんが 日系社会の活動について考えよう② (グループワーク)
11	1月16日(月)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	にほん だいがくせい こうりゅう 日本の大学生との交流② (グループ発表準備)
12	1月23日(月)	ごぜん 午前8:00～ ごぜん 午前10:00	にほん だいがくせい こうりゅう 日本の大学生との交流③ (こうりゅう 交流およびグループ発表)

【参加にあたっての注意事項】

* 研修日時は全て日本時間（JST）で表記しています。受講する国・場所の日時

を確認の上、受講してください。

* 各講義、研修の前後に「事前課題」、「事後課題」のレポート提出があります

（必須）。

* プログラム名、内容等、若干変更となることがあります。

あらかじめご了承ください。

* ★録画講義（No.2,3,4,7,8）は都合の良い日時に視聴することができます。

必ず配信期間内までに受講してください。

* ライブ講義の時間は講義によって異なりますので、その都度スケジュールを

確認して受講してください。

【主なプログラム概要について】

ファシリテーション・スキル講座

このプログラムでは、ファシリテーターとしてグループに与えられたテーマや

課題に取り組む際、グループ内で認識を

一致させ、互いの理解を促しながら成果

を導き出す手法の基礎を身に付けます。

学校や職場、日系社会のミーティング等

場で役立つ知識を得ます。

プレゼンテーション・スキル講座

①・②

「オンラインでの発表だと、相手のリ

アクションが分かりにくくて緊張す

る！」という悩みを解消できるよう、

相手に分かりやすい資料の作り方や、限

られた時間内で伝わるように説明を行

う基礎を学びます。

また、基礎編を習得後、グループに分か

れて実践します。

動画作成・スキル講座

日系社会の活動や日本文化の魅力を発信する上でどのようにソーシャルネットワーク

を活用したら良いか、また、どのように多くの人たちへ向けて情報を届けることがで

きるのか、その手法や注意点を学びます。

また、実際に動画を試作し、研修内で共有します。

日系人を発見しよう

①・②

一度は「日系人って何だろう？」考えたことがあるのではないのでしょうか？このプログラムでは、**自国**や**地域**のニーズを考え、**日系人**として**日系社会**や**自国**の**発展**のためにどのように**貢献**できるか、**研修員**と**意見交換**しながら**日系人**の**可能性**について考えます。

日系社会の活動について考えよう

①・②

日系社会で**活動**する**上**での**課題**や**活動**の**ヒント**を考えます。**日本**で***地域**おこし**協力隊**として**活動**していた方を**講師**として**迎え**、**地域**の人たちを**巻き込**んだ**活動**と**取り組み**等の**事例**を聞き、**グループ**に分かれて**ディスカッション**を行います。

移住年表づくり（高校生）

日本から**中南米**へ**移住**した**家族**や**地域**の人たちが、**移住**当時、**各移住地**でどのような**生活**や**体験**をしていたのか。**家族**や**地域**の人たちに**移住**についての**歴史**や**エピソード**を**インタビュー**し、**グループ**ごとに**移住年表**をつくりま

***地域**おこし**協力隊**とは…**地方**の**過疎化**問題を**解決**するため、**2009年**から**始**まった**制度**。

「**地域**おこし**協力隊**」と呼ばれる人は、**人口**が**減少**している**地域**や**高齢化**が進んでいる

地域に移住し、**地場**製品の**開発**や**販売**、**PR**活動を通じて**地域**住民を**支援**し、その**地域**への

定住を目指すもの。

日本の高校生との交流（高校生）①・②・③

この研修に参加する研修員は前のページの移住年表や自分が活動する日系社会、

中南米の学校生活について、日本の高校生は日本文化や学校生活、習慣について

グループ発表を行い、互いの文化や習慣等について楽しく学びながら交流します。

また、日本の高校生の発表を聞き、意見交換することで、日本に対する理解を深めな

がら自分との共通点や相違点を見つけ、自分たちのルーツについて考察します。

日本の大学生との交流（大学生）①・②・③

日本の大学生とのグループ活動を通して、自分が活動する日系社会の課題解決に向けた

取り組みやより良い活動をするための意見交換を行います。さらに、この研修で得た

知識を取り入れながら、日系社会での活動方法についてグループ発表を行います。

2022 年度

「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）オンライン移住学習」募集要項

2022 年 8 月



独立行政法人国際協力機構（JICA）

2022年度「日系社会次世代育成研修（高校生・大学生招へいプログラム）
オンライン移住学習」募集要項

1. 目的

中南米の日系社会では世代交代が進み、2世、3世以降が今後の日系社会を担う存在となっています。本研修は今後の日系社会を担う世代に対する本邦での研修を通して日本との関係強化や移住先社会の発展に貢献できるような人物を育成することを目的としています。

例年、研修員を本邦へ招へいし、研修を実施していますが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンライン移住学習を実施します。

2. 対象国および各国人数枠

9カ国 計51名(高校生31名、大学生20名)

	高校生人数	大学生人数
ドミニカ共和国	1	1
メキシコ	2	1
コロンビア	1	1
ベネズエラ	1	1
ブラジル	14	9
ペルー	3	2
ポリビア	3	2
パラグアイ	3	2
アルゼンチン	3	1
合計	31名	20名

3. 実施期間（予定）

2022年12月12日(月)～2023年1月25日 ※日本時間・日程の詳細は別紙参照

4. 実施概要

別紙を参照ください。高校生と大学生はプログラムの一部を合同で実施します。
実際の学習プログラムは上記から変更となる可能性があります。

5. 実施言語

日本語及び英語

6. 応募資格要件

応募者は、次の要件をすべて満たしていなければなりません。

- (1) 海外移住者及び概ね日系3世までの海外移住者の子孫（※）であること。

※日本人移住者の血統を引く者を指します。

※事業対象国に定住していること（主たる生活基盤があること）。

- (2) **プログラム参加時点で**、原則、日本の高校生相当（16歳以上、18歳以下）であること（高校生枠による参加）、または本プログラム対象国の高等教育機関(大学)に所属しており、かつ年齢が18歳以上30歳以下であること(大学生枠による参加)。
- (3) 親権者または保証人の同意が得られること。
※共同親権が法制化されている国においては、全親権者の同意が得られること。
- (4) 講義を日本語または英語で受講し、かつどちらかの言語を用いて、議論に参加できるレベルの能力を有すること。
- (5) 移住学習についての理解を深める強い意欲があること。
- (6) 原則、JICA 指定の全プログラムに参加できること。
- (7) オンライン移住学習に参加するに当たり、各参加者は自宅で受講することを想定しています。参加に必要な受講機器(PC やスマートフォン)、インターネット環境は参加者各自で準備いただきます。また、受講の際は受講機器(PC やスマートフォン)のカメラを使用します。

なお、グループディスカッション等お互いの画面共有の関係から、PC からの参加を推奨しますが、難しい場合はスマートフォンからの参加も可とします。

7. 修了証書について

修了証書については、以下の条件を満たしたものに発行・授与します。

- (1) すべてのライブ講義に積極的に参加をすること。
- (2) すべてのオンデマンド講義を期日内に受講すること。
- (3) 各講義で課される事前課題及び事後課題のレポートを指定された期日までに提出すること。

8. 応募書類

- (1) JICA が指定する以下の様式を使用して応募してください。

応募用紙…1 通 (別紙 2)

和文、英文のどちらか一つを提出してください。

アルファベットによる氏名：この書類に書かれた氏名の表記にしたがって、修了証書を作成します。

- (2) 所有していれば、以下の書類も応募と同時に提出してください。

※PDF または写真による添付も可能

ア. 日本語能力試験認定書等日本語能力に関する証明書類…写し 1 通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

イ. TOEIC、TOEFL 等英語能力に関する証明書類…写し 1 通

※公的試験等を受けたことがない場合は提出不要。

(注1) 上記(1)の書類は必ず本人が作成してください。

(注2) 上記(1)、(2)の書類がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、またすべての書類が募集締切日(各国によって異なる)までに完全に揃っていない場合は受理されません。

(注3) 提供された個人情報は、①合否の判定、②プログラム実施の準備、③事業実績の取りまとめ等の統計資料の作成のみに利用します。

9. 募集期間

JICA 在外事務所への応募書類提出締切日は各在外事務所により決定されるため、各在外事務所の指示に従ってください。メールでの応募も可能とします。

10. 参加の資格取消

参加者が次の事項に該当する場合、JICAはその資格を取り消すことがあります。

- (1) JICAの指示および決定に従わなかったとき
- (2) 本人の故意、重大な過失または怠慢等により、プログラムの参加を継続することが困難と認められるとき
- (3) 本人の都合により参加を中断したとき
- (4) 応募書類の記載事項に虚偽が発見されたとき
- (5) その他 JICA がやむを得ないと認める事由があるとき

11. その他の留意事項

- (1) 応募者は、事業対象国の国籍を有すること(あるいは日本の国籍を有すること)が望ましいです。
- (2) 合格者は肖像権の承諾書を提出してください。

以上

別紙1: 「日系社会次世代育成研修(高校生・大学生招へいプログラム)オンライン移住学習」実施概要

別紙2: 「日系社会次世代育成研修(高校生・大学生招へいプログラム)オンライン移住学習」応募書類様式